

表 2 若年者就職基礎能力の修得の目安（参考例）

【コミュニケーション能力】

構成する能力	定義等	高校卒レベル	大学卒レベル
意志疎通	自己主張と傾聴のバランスをとり、効果的に意志疎通すること。	<ul style="list-style-type: none"> 情報伝達について 例：情報を正確に伝える。 意見の主張について 例：自分の意見を主張する。 傾聴する姿勢について 例：相手の意見に耳を傾ける。 双方向の円滑なコミュニケーションについて 例：他者の言葉を正確に聞き取り、理解する。 意見集約について 例：他人が言ったことを適切に取りまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報伝達について 意見の主張について 例：場面に応じて自分の意見を主張する。 傾聴する姿勢について 例：相手の意見に耳を傾け、更に相手からの話を聞き出す。 双方向の円滑なコミュニケーションについて 例：他者の言葉に表されない、ないしは部分的にしか表されない考え方、懸念を正確に聞き取り、理解する。 相手の行動や思考パターンから、相手が表明していない意図や意思を的確に推察する。 意見集約について 例：他人が言ったことや言おうとすることを適切に取りまとめる。
協調性	相手との調整を図り、調和を保つこと。	<ul style="list-style-type: none"> 相手の尊重について 組織・人間関係について 例：異なる状況、組織や人間関係を築く。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の尊重について 例：相手との社会的立場関係を認識し、臨機応変にやり方を変える。 組織・人間関係について 例：異なる状況、組織や人間関係を素早く築く。
自己表現能力	状況に合った訴求力のあるプレゼンテーションを行うこと。	<ul style="list-style-type: none"> 明確な説明について 例：伝えたいことを正確に説明する。 自分の意志を適切な方法で相手に伝え、的確な理解と行動を促す。 図表等を用いた表現について 例：具体的情報を絵や図表を用いて表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 明確な説明について 例：自信を持った態度で説得力のあるプレゼンテーションを行う。 自分の意志を適切な方法で相手に伝え、的確な理解と行動を促す。 図表等を用いた表現について 例：図や視覚効果などを使って、伝えたいメッセージが明確で説得力を持つように工夫する。

【職業人意識】

構成する能力	定義等	高校卒レベル	大学卒レベル
責任感	社会の一員として役割の自覚を持つこと	<ul style="list-style-type: none"> 社会人・職業人としての社会的役割と責任について 例：手を抜かずまじめに対応する。 自分の仕事の約束を守る。 法的・倫理的問題を起さない。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会人・職業人としての社会的役割と責任について 例：組織が目指す目標や要求する行動基準を理解し、その実現に貢献する。 あらゆる状況下において、社会や組織のルールを遵守し、自分の発言と行動を一致させる。
向上心・探求心	働くことへの関心や意欲、進んで課題を見つけ、レベルアップを目指すこと	<ul style="list-style-type: none"> 目標設定と達成志向について 例：自ら目標を設定する。それを達成するまで諦めずに粘り強く取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標設定と達成志向について 例：高い目標を掲げる。謙虚に自己反省をし、日々成長し、目標を達成しようとする姿勢を維持する。 問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む。
職業意識 勤労観	職業や勤労に対する広範な見方・考え方をもち、意欲や態度等で示すこと	<ul style="list-style-type: none"> 職業観・勤労観について 	<ul style="list-style-type: none"> 職業観・勤労観について 例：タスクを達成する自分自身の能力に対する信念や確信を持っている。 個性や知恵を発揮し、自己実現の追求、自己の社会的意義を高める。 プロとしての誇り、職業モラルを持っている。

【基礎学力】

構成する能力	定義等	高校卒レベル	大学卒レベル
読み書き	事務・営業職の職務を遂行するに当たり最低限必要な知識及び知能	<ul style="list-style-type: none"> ビジネス文書の作成について ビジネス文書の読解について 	<ul style="list-style-type: none"> ビジネス文書の作成について ビジネス文書の読解について
計算・計数	事務・営業職の職務を遂行するに当たり最低限必要な知識及び知能	<ul style="list-style-type: none"> 計算、計数について 例：比較的簡単な計算・置換・照合・分類等能力がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算、計数について
社会人常識	社会人として必要な知識等の常識（後掲の「ビジネスマナー」に分類されるものを除く）	<ul style="list-style-type: none"> 社会人として必要な常識について 	<ul style="list-style-type: none"> 社会人として必要な常識について

【ビジネスマナー】

構成する能力	定義等	高校卒レベル	大学卒レベル
基本的なマナー	気持ちの良い受け答えやマナーの良い対応をする。集団社会に必要な規範意識とマナー	<ul style="list-style-type: none"> あいさつと話し方について 例：あいさつの心得 勤務中のあいさつ お詫び・お礼の言い方 おしぎの仕方 敬語の種類 敬語の使い方 自他の敬語表現 話し方・聞き方のコツ 接客時・訪問時におけるマナー 電話の受け方のポイント 電話の取り次ぎ方 電話の取り次ぎができないときの対応 伝言メモの書き方 電話のかけ方のポイント 電話をかけるときの慣用句 携帯電話のマナー 訪問の方法について アポイントメントのとり方 訪問のマナー 名詞の受け方・渡し方 紹介の仕方 来客の対応について 来客対応のマナー 来客を取り次ぐとき 来客を取り次げないとき 話し方の基本、言葉遣い、話の聞き方、指示の受け方 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつと話し方について 接客時・訪問時におけるマナー 訪問の方法について 来客の対応について 話し方の基本、言葉遣い、話の聞き方、指示の受け方

【資格取得】

構成する能力	定義等	高校卒レベル	大学卒レベル
資格の取得	情報技術関係	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータ操作について 情報処理・活用について 	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータ操作について 情報処理・活用について システム設計・開発について コンサルティングについて
	経理・財務関係	<ul style="list-style-type: none"> 予算管理について 原価管理について 財務諸表の読解について 決算処理について 法人税務について 	<ul style="list-style-type: none"> 予算管理について 原価管理について 財務諸表の作成・読解について 決算処理について 法人税務について 国際会計について
	語学力	<ul style="list-style-type: none"> 語学力について 	<ul style="list-style-type: none"> 語学力について

3．調査対象

ヒアリングは特定の業種、規模に偏らないことを考慮し、ヒアリング実施に協力意向のある下記の11社を対象とした。

ヒアリング結果 1：A社（流通、従業員約2,000名）

ヒアリング結果 2：B社（食品、従業員約500名）

ヒアリング結果 3：C社（システム開発、従業員約650名）

ヒアリング結果 4：D社（金属加工、従業員約180名）

ヒアリング結果 5：E社（システム収納製造・施工・販売、従業員約90名）

ヒアリング結果 6：F社（商社及び情報システム開発、従業員約250名）

ヒアリング結果 7：G社（パソコン教室の運営他、従業員約1,800名）

ヒアリング結果 8：H社（半導体製造装置製造、従業員約1,100名）

ヒアリング結果 9：I社（飲料製造販売、従業員約120名）

ヒアリング結果 10：J社（金属加工・販売、従業員約270名）

ヒアリング結果 11：K社（書籍他の通信販売、従業員約180名）

4. 調査結果

4.1 各社調査結果

ヒアリング結果1：A社（流通、従業員約2,000名）

- ・高校卒、大学卒ともに、基本的なことがきちんと身につけていることを重視しており、例えばコミュニケーション能力のうち意思疎通については「伝達すべき情報・考え方を文書または口頭によりの確・簡潔かつ明確に伝えることができる」（高校卒、大学卒共通）といったレベルを求めている。
- ・高校卒、大学卒については求めるレベルについて大きな違いが見られないものの、高校卒レベルでの採用の場合、チーム作業への配属が多くなるため、特に協調性を重視している。

ヒアリング結果2：B社（食品、従業員約500名）

- ・高校卒、大学卒ともに、コミュニケーション能力のうち意思疎通については「質問を正しく理解することができる、質問にきちんと答えることができる」（高校卒、大学卒共通）、職業人意識のうち向上心・探究心については「分からないことを分からないと言える」（高校卒、大学卒共通）といった基本的なレベルを求めている。
- ・また、コミュニケーション能力として「笑顔で相手と話をすることができる」「明るい（第一印象）」（高校卒、大学卒共通）というように、何ができるといったようなレベル以外のものを求めていることも特徴である。
- ・高校卒、大学卒については求めるレベルについて大きな違いが見られないものの、高校卒レベルでの採用の場合、一般事務職ではより仕事の正確さ、営業職ではより明るさ、快活さを重視している。

ヒアリング結果3：C社（システム開発、従業員約650名）

- ・高校卒の若年者については採用が少ないため、大学卒を中心としている。
- ・当社については、職業人意識のうち向上心・探究心、職業意識・勤労意識、その他において、「自発的な取り組みができる」としている点に特徴がある。また、資格の取得についても「向学心・向上心という意味から人物評価の手段として重視している」という点も特徴となっている。ただし、新入社員に余りに高いレベルの資格は求めておらず、必要とされるものは入社後に配属部署によって取らせるようにしている。
- ・前述の通り、高校卒の若年者については採用が少ないものの、大学卒・高校卒に求める能力レベルとしては差をつけていない。ただし、あえて差をつけるとすると、コミュニケーション能力に関して「周囲の人の考えを理解しようと努力する気持ち」、職業人意識のうち責任感・忍耐力があることと合わせて重視している。職業人意識のうち向上心・探究心において「指導を受けながらも向上心を維持できること」、基礎学力のうち読み書きについて「文章としてまとめ上げることができる」ことを挙げている。

ヒアリング結果4：D社（金属加工、従業員約180名）

- ・高校卒、大学卒とも、各能力について求める内容は、概ねヒアリング対象企業の中で標準的なものとなっている。
- ・ただし、高校卒、大学卒で求める能力レベルに差が殆ど無いヒアリング対象企業が多い中、各能力とも高校卒よりも大学卒に求めるレベルが高くなっている。例えば、コミュニケーション能力のうち協調性について、高校卒レベルは「相手の立場を理解し話ができる」としているが、大学卒レベルは「相手の立場、状況を認識し、行動を起こせる」と一歩踏み込んだ能力を求めている。また、職業人意識のうち職業意識・勤労感について、高校卒レベルは「会社のルールなどを守ることができる」としているが、大学卒レベルは「会社の目標を理解し、その上で自らの目標を立てることができる」としている。
- ・資格取得はMOUSでエクセル・ワード等のコンピュータ操作と、高卒には3級、大学卒には2級以上の簿記の知識を求めている。また、大学卒では大学卒としての英会話力を求めている。なお、パソコン・英会話・簿記以外の資格については、あればそれを参考にする程度としている。

ヒアリング結果5：E社（システム収納製造・施工・販売、従業員約90名）

- ・各能力とも高校卒よりも大学卒に求めるレベルが高くなっている。例えば、コミュニケーション能力のうち自己表現力について、高校卒レベルは「自分の考えを相手に伝えることができる」としているが、大学卒レベルは「言いたいことを簡潔に説明できる」となっている。また、社外におけるビジネスマナーについて、高校卒レベルは「社会人としての善し悪しを理解している」としているが、大学卒レベルは「業務遂行における言葉遣い、態度を心得ている」としている。また、基礎学力のうち社会人常識について、特に大学卒レベルでは「新聞で報道されているビジネスや社会経済の一般動向を知り、特に建設業界の動向をよく知っている」と関連業界の動向を知っていることを求めている。また資格取得は、情報技術・簿記・英語の三つは基本的なものとして必要とする一方で、三つ全てをとるところまでは求めていない。

ヒアリング結果6：F社（商社及び情報システム開発、従業員約250名）

- ・各能力について求めるレベルとして、例えば職業人意識のその他（大学卒レベル）で「謙虚の過剰は良くなく、仕事に対する誇りを持って望む」、基礎学力その他について「筆記試験の上位者はそれだけの努力のできる人と判断（高校卒レベル）」「日常英語ができる程度の英語力（直接実務に関係がなくてもある程度英語が話せなければ、ビジネスマンとしてのセンスが問われる）」というように、各能力についてF社としての明確なポリシーを持っていることが推測される。
- ・各能力とも高校卒よりも大学卒に求めるレベルが高くなっている。例えば、コミュニケーション能力のうち自己表現力について、高校卒レベルは「伝えたいことを相手にきちんと説明することができる」としているが、大学卒レベルは「伝えなければならないこと、伝える必要のないこと

を選択でき、伝える場合に適切な方法で説明することができる」となっている。

- ・資格の有無は能力を把握する客観データとして活用しており、一般事務・営業職には、パソコン・語学・会計経理関係の資格を持っていれば有利に判断する。大学卒では簿記であれば2級以上、英検であれば2級以上の資格を求めており、課題に対する達成指向能力としても判断する。

ヒアリング結果7：G社（パソコン教室の運営他、従業員約1,800名）

- ・高校卒の採用はしておらず、大学卒のみを採用している。
- ・各能力について求めるレベルとして、明確な基準を置いている訳ではないが、基礎学力のうち読み書きについては「ビジネス文書を理解し、基本的な作文力があり、それによって自己表現できる」、計算・計数については「エクセルのコマンド読解力を持っている」、「ビジネスに必要なパソコンの知識を持っている」というように具体的な基準を持っていることが分かる。
- ・資格については、それぞれ大学卒に見合ったレベルの資格を取得していることを求めているが、全て取得しているところまでは求めていない。また、その他の資格については、余り多くを初めから求めることはしていない。

ヒアリング結果8：H社（半導体製造装置製造、従業員約1,100名）

- ・高校卒の採用はしておらず、大学卒のみを採用している。
- ・全項目に共通して明確な基準を置いておらず、また独自の考え方をしている点も見受けられない。
- ・資格については、理想を掲げれば上限はないが、全部とはいかないまでもホワイトカラーとしては情報技術・簿記・英語の三つが求められる。

ヒアリング結果9：I社（飲料製造販売、従業員約120名）

- ・高校卒、大学卒とも、各能力について求める内容は、概ねヒアリング対象企業の中で標準的なものとなっているが、各能力とも高校卒よりも大学卒に求めるレベルが高くなっており、コミュニケーション能力のうち意思疎通、自己表現力等、高校卒に求めている項目もある。
- ・各能力に求めるレベルについては、ヒアリング対象企業の平均的なものであるが、職業人意識のうち職業意識・勤労感について「会社の仕事が好きで、より良い仕事を達成しようとする意欲を持っている（高校卒レベル）」、「職業人として、仕事に誇りを持ち、より良い仕事を行おうと努力する（大学卒レベル）」と仕事に対する前向きな意識を重視している点がI社の特徴となっている。また、資格は、パソコンの基本操作を取得していることが望ましく、語学では英検やTOEICの高校レベルが求められる。大卒ではコンピュータの基本スキルを身につけ、財務諸表を読む基本的なビジネス知識を持っているとよいとされている。英検やTOEICでの大学レベルが求められている。

ヒアリング結果 10：J社（金属加工・販売、従業員約 270 名）

- ・高校卒、大学卒とも、各能力について求める内容は、概ねヒアリング対象企業の中で標準的なものとなっており、高校卒に対し大学卒に求めるレベルが項目によっては高くなっている。
- ・各能力に求めるレベルについては、ヒアリング対象企業の平均的なものであるが、職業人意識のうち職業意識・勤労感について「長く働く意志がある（高校卒レベル）」、「長く働く意志を強く持っている（大学卒レベル）」とJ社での勤続意欲を重視している点に特徴がある。また、資格は、パソコン検定などの資格があればよい。さらに大卒では簿記の検定などの資格があればよいとされている。

ヒアリング結果 11：K社（書籍他の通信販売、従業員約 180 名）

- ・高校卒、大学卒の違いにより採用の区分はしていないとのことで、高校卒、大学卒ともに各能力同じレベルを求めている。
- ・具体的には、コミュニケーション能力その他で「相手に伝わらなければ、意見を言ったことにはならないので自己表現力は特に重視する」、職業人意識で「会社の仕事に対して興味を持ち、会社の目標、方針などを理解し、自らの目標とすることができる」といったように、考え方の明確性に関連する項目については高いレベルを求めている点に特徴がある。また、資格はパソコン検定など、事務系処理能力が判定できる資格と、英語や会計事務能力を判定できる英検や簿記などの資格を求めている。

4.2 分析

(1) 全体の傾向

コミュニケーション能力、職業人意識、基礎学力、ビジネスマナー、資格取得といった若年者就職基礎能力に関し、いずれの能力についても基本的なことがきちんと身につけていることを重視している現状が浮き彫りとなった。

とりわけ、意思疎通や協調性などのコミュニケーション能力についてを重視する企業が多い結果となっている。また、仕事や物事に前向きに取り組む姿勢を買う企業が多く、それが責任感、向上心等の職業人意識を重視した採用行動となっている。基礎学力としては高度なものというよりは、円滑な事務遂行のために必要となる読み書きや計算能力が求められている。ビジネスマナーについて社内、社外を含めた社会の基礎的なルールを身に付けていることが求められている。また、資格取得については、保有する職業能力を客観的に把握できる利点が挙げられ、求める資格分野としては情報技術関係、経理財務関係、語学力関係の資格を重視する企業が多い結果となっている。

(2) 学歴別

高校卒、大学卒のいずれも採用している企業について、両者間に明確な差を設けているのは5社(D,E,F,I,J社)、両者共通としているのは3社(A,B,K社)であった(3社は大卒採用のみ)。学歴により差を設けている企業に関しては、大学卒について、知識のみにとどまらない実践的・応用的なレベルの能力を求めている。また、求められる資格については取得レベルが異なる設定とされている。

(3) 採用職種別

一般事務職と営業職といった採用職種によって求められる能力の内容は大きく区別している企業は見あたらなかった。これは、いずれの職種も広くは事務系(ホワイトカラー系)の職種であり差異化はされていないこと、また、エントリー層に対して求められる能力として共通的なものであることから、両者には差が出なかったものと考えられる。なお、営業職に対しては明るさや快活さといった性格を挙げる企業がみられた。

(4) 能力の内容別

コミュニケーション

高校卒、大学卒で同じレベルを求める企業は3社(A,B,K社)であり、学歴で区別しているのは6社(C,D,E,F,I,J社)であった。質問・考え方に対する理解力と的確な回答を意思疎通・自己表現において重視する傾向にあり、協調性ではチームワークや相手の立場や考えを理解することができる、理解しようと努力する気持ちが必要など、社会人として以前の基本的なレベルが求められていた。学歴により区別している企業では、自分の考えと意見を状況を考慮しながら伝えることができるなど、大学卒には単なる質問等への回答ではない一歩踏み込んだ行動が求められている。意思疎通や協調性を重視する企業が多い結果となっている。

職業人意識

仕事や物事に前向きに取り組む若年者の姿勢を買う企業が多く、それが責任感、向上心等の職業人意識を重視した採用行動となっている。責任感ではまじめに完遂することが前提であり、職

業人意識の中で特に重要視するとした社(K社)もあった。向上心・探求心では分からないことに対する対応、解決するための能力が重視され、大卒には自己啓発による意欲的・積極的な取り組みを求める企業が多かった(A,C,D,G,H社)。全体として大卒には会社の目標・方針を理解し、自ら目標を立て良い仕事を指すこと、高卒には会社のルールの遵守、仕事への関心・意欲など基本的な意識や真摯な姿勢を企業が望む傾向にあった。

基礎学力

どの企業も学歴に応じたレベルの読み書き・計算能力が基本であるが、大卒ではビジネス文書の読解力・作文力を備えていることとする企業が複数見られた(C,D,G,I,J,K社)。また、財務諸表を読む能力や数字に対する意識といった高いレベルを求める企業(K社)も見られた。報道される社会経済の一般動向などを知るという社会や業界に対する関心を社会人常識として認識している企業が特に多く見受けられた(A,D,E,F,G,H,I,J,K社)。

ビジネスマナー

礼儀や言葉遣いを挙げる企業が6社(C,G,H,I,J,K社)と学歴を問わず多く、服務規律・社内規則やルールの遵守についても4社(A,C,J,K社)見られた。また大卒については仕事上のやりとりの基本を知っていることや(C,E,H,I社)、社外においてのマナーとして守秘義務をわきまえることを求める企業が見られた(I,J,K社)。ビジネスマナーについて社内、社外を含めた社会の基礎的なルールを身に付けていることが求められている。

資格取得

資格を重視している企業が求める資格分野としてはパソコン操作等の情報技術関係、簿記等の経理財務関係、語学力として英語の資格取得を若年者に期待している様子が見られた。一般事務、営業職採用に当たってはこれらの3分野の資格が重視される実態が明らかになった。また、これらの他の資格については、「特になし」とする企業(B,C,I,J,K社)、取得していれば参考にする程度とする企業が見られた(D社)。また、上記の情報技術関係、経理財務関係、語学力関係の資格を全て取得することまでは求めていない企業が複数見られた(E,G,H社)。

なお、資格取得については、保有する職業能力を客観的に把握できる利点の他、前向きに積極的に取り組む態度を評価する企業が見られた(C,F社)。

企業ヒアリング結果（各社別シート）
（平成16年2月）

ヒアリング結果 1 : A社 (流通、従業員約 2,000 名)

		若年者に求める就職基礎能力						
		高校卒レベル			大学卒レベル			
		採用の基本レベル (一般事務職のみ)	選考時 考慮項目	審査方法	採用の基本レベル (一般事務職・営業職共通)	選考時 考慮項目	審査方法	
コミュニケーション能力	1	意思疎通	・伝達すべき情報・考え方を文書または口頭によりの確・簡潔かつ明確に伝えることができる		筆記・面接	・伝達すべき情報・考え方を文書または口頭によりの確・簡潔かつ明確に伝えることができる		筆記・面接
	2	協調性	・他人の守備範囲やチームプレーに進んで協力することができる		面接	・他人の守備範囲やチームプレーに進んで協力することができる		面接
	3	自己表現力	・伝達すべき情報・考え方を文書または口頭によりの確・簡潔かつ明確に表現することができる		筆記・面接	・伝達すべき情報・考え方を文書または口頭によりの確・簡潔かつ明確に表現することができる		筆記・面接
	4	コミュニケーション能力その他						
職業人意識	5	責任感	・自己の役割を正しく理解し、自分の守備範囲を最後までやり遂げようと努める		面接	・自己の役割を正しく理解し、自分の守備範囲を最後までやり遂げようと努める		面接
	6	向上心・探究心	・常に自己の領域を広げるために自己啓発・量的チャレンジを行なっている		面接	・常に自己の領域を広げるために自己啓発・量的チャレンジを行なっている		面接
	7	職業意識・勤労感	・服務規律を守り、命令・指導をよく理解し、秩序・風紀に即して行動することができる		面接	・服務規律を守り、命令・指導をよく理解し、秩序・風紀に即して行動することができる		面接
	8	職業人意識その他						
基礎学力	9	読み書き	・誤字脱字がない、あるいは少ない ・マニュアルや規程等を正しく理解することができる		筆記	・誤字脱字がない、あるいは少ない ・マニュアルや規程等を正しく理解することができる		筆記
	10	計算・計数	・計算間違いがない、あるいは少ない		筆記	・計算間違いがない、あるいは少ない		筆記
	11	社会人常識	・新聞一面で報道されるビジネスや社会経済の動向を知っている。		筆記・面接	・新聞で報道されるビジネスや社会経済の一般動向を知っている		筆記・面接
	12	基礎学力その他						
ビジネスマナー	13	社内	・服務規律を守り、命令・指導をよく理解し、秩序・風紀に即して行動することができる		面接	・服務規律を守り、命令・指導をよく理解し、秩序・風紀に即して行動することができる		面接
	14	社外	・会社のイメージダウンになるような行ないがない		面接	・会社のイメージダウンになるような行ないがない		面接
	15	ビジネスマナーその他						
資格の取得	16	資格の取得 ・情報技術関係 ・経理財務関係 ・語学力関係						
	17	資格の取得その他						
その他	18	その他						

ヒアリング結果 2 : B社 (食品、従業員約 500 名)

		若年者に求める就職基礎能力						
		高校卒レベル			大学卒レベル			
		採用の基本レベル (一般事務職・営業職共通)	選考時 考慮項目	審査方法	採用の基本レベル (一般事務職・営業職共通)	選考時 考慮項目	審査方法	
コミュニケーション 能力	1	意思疎通	・質問を正しく理解することができる ・質問にきちんと答えることができる		面接	・質問を正しく理解することができる ・質問にきちんと答えることができる		面接
	2	協調性	・グループでの作業、行動をすることができる(学生時代に部活動等で、グループ活動の経験がある)	特に	面接 履歴書	・グループでの作業、行動をすることができる(学生時代に部活動等で、グループ活動の経験がある)		面接 履歴書
	3	自己表現力						
	4	コミュニケーション能力その他	・笑顔で相手と話をすることができる ・明るい(第一印象) ・快活	特に	面接	・笑顔で相手と話をすることができる ・明るい(第一印象) ・快活		面接
職業人意識	5	責任感	・グループでの作業を完遂することができる(学生時代に部活動等で、指導的な立場に立った経験がある)		面接 履歴書	・グループでの作業を完遂することができる(学生時代に部活動等で、指導的な立場に立った経験がある)		面接 履歴書
	6	向上心・探究心	・分からないことを「分からない」と言える		面接	・分からないことを「分からない」と言える		面接
	7	職業意識・勤労感	・企業人としての物の見方・考え方等の素地がある		面接	・企業人としての物の見方・考え方等の素地がある		面接
	8	職業人意識その他						
基礎学力	9	読み書き	・漢字の読み、書き		筆記試験	・漢字の読み、書き		筆記試験
	10	計算・計数						
	11	社会人常識	・社会人としての常識をある程度もっている		筆記試験	・社会人としての常識をある程度もっている		筆記試験
	12	基礎学力その他						
ビジネス	13	社内						
	14	社外						
	15	ビジネス-その他						
資格の取得	16	資格の取得 ・情報技術関係 ・経理財務関係 ・語学力関係	・PCと英語関連を除き、あまり重視していない		資格の有無	・PCと英語関連を除き、あまり重視していない		資格の有無
	17	資格の取得その他						
その他	18	その他						

ヒアリング結果3：C社（システム開発、従業員約650名）

			若年者に求める就職基礎能力					
			高校卒レベル (高校卒若年者の採用は殆どしていないが、採用する場合も大 学卒と同レベルを求める。ただ、高校卒を前提に特に重視する 点を以下に記載)			大学卒レベル		
			採用の基本レベル (一般事務職・営業職共通)	選考時 考慮項目	審査方法	採用の基本レベル (一般事務職・営業職共通)	選考時 考慮項目	審査方法
コミュニケーション 能力	1	意思疎通				・自分の考えを相手に伝える事ができる。 ・相手の考えを(聞くことができ)理解できる。		面接
	2	協調性				・相手の考えや周りの意見を理解する努力ができる。		面接 業者テスト
	3	自己表現力				・言葉を主とした手段で相手に説明することができる。		面接
	4	コミュニケーション能力その他	・周囲の人の考えを理解しようと努力する気持ち					面接
職業人意識	5	責任感	・忍耐力と併せて重視している。			・真摯に最後まで取り組む事ができる。		面接 業者テスト
	6	向上心・探究心	・指導を受けながらも向上心を維持できる事。			・自発的な取り組みができる。		同上
	7	職業意識・勤労感				・自発的な取り組み、集団的な取り組みができる。		同上
	8	職業人意識その他				・自主性・自発性があること。		同上
基礎学力	9	読み書き	・文章としてまとめ上げることができる。			・社会常識を意識して文章を書く力があること。 ・基本的な作文力があること。		面接 業者テスト
	10	計算・計数						
	11	社会人常識						面接 業者テスト
	12	基礎学力その他				・その応用力とセットで重視している。		面接 テスト
ビジネス	13	社内						
	14	社外						
	15	ビジネスその他						
資格の取得	16	資格の取得 ・情報技術関係 ・経理財務関係 ・語学力関係				・向学心・向上心という意味から人物評価の手段として重視している。 ・それぞれ余りに高いレベルは求めない。		
	17	資格の取得その他				・例示の他に必要なものは配属後取らせる。		
その他	18	その他						